

アルコール商品に含まれる純アルコール量の商品への表示を順次開始 ～適正飲酒に関する Web サイトへつながる短縮 URL も併せて表示～

キリンホールディングス株式会社（社長 磯崎功典）のグループ会社である、キリンビール株式会社（社長 堀口英樹）は、アルコールの有害摂取根絶(Zero Harmful Drinking)に向けた取り組みの一環として 2022年5月から、国内で販売する主なアルコール商品に含まれる純アルコール量の商品への表示を順次開始し、2023年末までの完了を目指します。対象商品は、ビール類（ビール・発泡酒・新ジャンル）及び RTD[※]の 350ml 缶、500ml 缶です。

なお、純アルコール量の表示に加え、当社の適正飲酒に関する Web サイトへつながる短縮 URL (tekiryo.jp) を併せて表示します。

キリングroupでは、アルコール関連問題に真摯かつ適切に対応することは、アルコール飲料を製造・販売する企業としての社会的責任と考えています。

今回純アルコール量の表示のみならず、適正飲酒に関する Web サイトの短縮 URL も表示することで、お客様が適正な飲酒量と飲酒に関する正しい知識を深めて、自身で飲酒量をコントロールできるようにすることで、アルコールの有害摂取根絶につなげていきます。

※：Ready to Drink の略。栓を開けてそのまま飲める低アルコール飲料

【表示方法（イメージ）】



2010年にWHO（世界保健機関）で「アルコールの有害な使用を低減するための世界戦略」が採択され、SDGs（持続可能な開発目標）の健康分野でも目標の1つとして明記されるなど、アルコール関連問題は社会全体で協議しながら取り組むべきグローバルな課題となっております。また、国内では2021年3月にアルコール健康障害対策推進基本計画（第2期）が閣議決定され、アルコール関連問題への取り組みは加速しています。キリングroupはアルコールの有害摂取根絶に向けた取り組みを着実に進展させていきます。